

## 子どもが暴力にあいやすい要因とCAPの取り組み

### ◆知識や情報を持っていない

正しい知識や情報を年齢や発達に合わせて伝え、実際に使えるよう繰り返し練習する

### ◆力を持たされていない

人権意識(安心・自信・自由)を育み、本来の力を発揮できるようエンパワメント(子どもの力を信じ、内なる力が活性化できるようにする働きかけ)をする

### ◆社会支援・援助が少ない

共通認識を持つおとなや場を増やして子どものSOSの声を聞き漏らさず、二次被害を防ぐ

### ～ 包括的な予防教育 ～

**未然防止** できる限り安心・安全な環境を整える

**発生防止** 起こりそうになったときにストップする

**悪化防止** すでに起きていることが悪化するのを防ぐ

**再発防止** 再び起こらないようにする

防災訓練のように定期的にワークショップを繰り返し実施することで効果的な予防につながります。

## 暴力にあったとき子どもたちができること

「できること」を学ぶことで、被害にあったときにご自身の行動を選択することができます。

話していいことばや、あなたは悪くないよ



### ～ 行動の選択肢 ～

- ★「いや」と言っていよいよ **NO!**
- ★逃げることもできるよ **GO!**
- ★誰かに相談しよう **TELL!**

## おとなワークショップ

子どもワークショップの前には必ずおとなワークショップを実施します。子どもたちを支えるおとなが、子どもの人権や話の聴き方、暴力を受けた子どものサインなどを学び、日々の生活でも活用することはとても大切なことです。**おとなワークショップのみの実施は可能です。**

保護者・教職員・地域のおとなプログラム (2時間～3時間 : 1～2 日間)

暴力とは、しつけと体罰、子どもの権利、子どもワークショップ体験、周りのおとなができること、質疑応答

## 子どもワークショップ

子どもワークショップは、年齢や発達段階に応じて内容や実施時間が異なります。また、子どもたちが怖がらず楽しく参加できるよう色々な工夫がされています。必ずおとなワークショップと併せて実施し、プログラムを学んだ子どもたちのサポート環境を整えます。**子どもワークショップのみの実施はできません。**

就学前プログラム (約 30 分+トークタイム : 3日間)

小学生プログラム (約 90 分+トークタイム : 1～2 日間)

中学生暴力防止プログラム (約 100 分+トークタイム : 2 日間)

障がいのある子どもへのプログラム (約 30 分+トークタイム : 3日間+予習日・復習日)

これらのプログラムのほかに、児童養護施設向けのプログラムも実施しています。



## CAPプログラムの基本的な内容

CAPプログラムに参加した子どもたちの声



友だちに「いや」って言えるようになった。先生としゃべれるようになった。

前は自信をなくしていたけど、話をきいて自信が出た。

何かいろいろなことにチャレンジできるようになった。

友だちと一緒に言えば、「やめて」と言えるんだなあと思った。

あまりひとのいやがることを言われたり、言ったりしなくなった。

普通に道をきいてきた人だったけれど、まわりが暗かったので、一応、1メートル以上はなれて話した。

### 子どもワークショップの基本的な流れ

子どもの権利

- ・安心
- ・自信
- ・自由

いじめのロールプレイ

(子ども同士の暴力)

- ・イヤと言う練習
- ・告げ口と相談 など

誘拐のロールプレイ

(知らない人からの暴力)

- ・特別な叫び声
- ・護身術
- ・安全な距離

性暴力のロールプレイ

(知っている人からの暴力)

- ・自分の体は自分のもの
- ・安心な触り方、嫌な触り方
- ・安心な秘密、怖い秘密
- ・相談することの大切さ など

先生に話すロールプレイ

- ・信頼できるおとなに相談する

トークタイム

- ・希望する子どもが個別に復習や相談ができる大切な時間